

■平成25年度第12回（第228回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成26年2月4日（火） 午後2時00分～午後2時30分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、本間副市長、水道事業管理者、政策局長、総務局長、財政局長、
行財政改革推進本部長、総合政策監、スポーツ文化部長

【議 題】（2）さいたまシティカップの開催方法の見直しについて

< 提 案 説 明 >

さいたまシティカップの開催方法の見直しについて、市民・スポーツ文化局から次のような説明があった。

- ・ シティカップは、「サッカーのまち さいたま」を象徴する事業であり、平成15年の政令市移行記念として開催以来、本年度までに9回開催している。本市をホームタウンとする浦和レッズ、大宮アルディージャと海外の強豪クラブチームとの国際親善試合等を実施することによって、多くの市民に一流のプレーを間近で見る機会を提供するとともに、「サッカーのまち さいたま」を国内外に発信することを目的としている。
- ・ これまでの事業実績としては、主にヨーロッパの強豪クラブを招聘し、延べ約34万人の観客を動員している。
- ・ 第1回大会のオランダ、フェイエノールト戦では約5万2千人。第2回大会のイタリア、インテル・ミラノ、第3回大会のスペイン、FCバルセロナ戦ではいずれも約5万7千人。第5回大会のイングランド、マンチェスターユナイテッド戦では、本大会最高入場者数の約5万8千7百人の観客を集めた。
- ・ 第4回・第6回大会のドイツ・FCバイエルン・ミュンヘンを招聘した大会では、いずれも3万人を割り込む結果となっているが、これは、実力的には世界トップクラスのドイツリーグだが、当時は日本における人気は、他のリーグより低く、ライトなサッカーファンの来場が得られなかったことが原因と考えている。
- ・ 第7回大会の大宮アルディージャ対韓国・水原サムスン戦では、当日の天候が雪であったこと等から、観戦者数が約6千人となったもの。
- ・ 第8回大会では、2010ワールドカップ開催年と重なり、日程的に海外強豪チームとの調整が困難となったため、浦和レッズと大宮アルディージャによるダービーマッチを開催した。
- ・ 以降は、本大会の本来の目的に立ち返り、海外強豪チームの招聘に努めたが、平成23年度は、東日本大震災の影響により開催を見送り、また、翌平成24年度についても、ヨーロッパ選手権やロンドンオリンピックの開催、浦和レッズのACL出場や

大宮アルディージャの天皇杯勝ち上がりなどにより、日程調整が困難となったことから、開催を見送った。

- ・ 次回は第10回の記念大会となるため、多くの観客を集めて、より魅力ある大会としたいと考えており、過去の実績からも、イングランドのプレミアリーグやイタリアのセリエAといった、ヨーロッパの人気リーグの上位のクラブを招聘する必要があると考えている。
- ・ 平成25年度事業（第9回）の概要としては、埼玉スタジアム2002開設10周年記念を冠に、埼玉県との共同開催により、昨年7月26日（金）に、イングランド・プレミアリーグの名門アーセナルFCを招き、浦和レッズとの対戦を埼玉スタジアムにおいて実施した結果、40,769人の観客が来場した。
- ・ 財政負担としては、埼玉県が3,800万円、本市が4,000万円を、それぞれ負担するとともに、埼玉スタジアム使用料約1千万円の減免があった。
- ・ この大会に関する報道や試合の様子は、各種のメディアを通じて発信され、「サッカーのまち さいたま」を国内外に向け効果的に発信することができ、本市のシティセールスに、大いに貢献できたものと考えている。
- ・ 試合以外にも、市民との交流事業として、アーセナルFCの協力により、市内の小中学生100人を招待した選手サイン会を開催し、世界一流のプレーヤーと次代を担う子供たちとの交流を図ることができた。また、大会前日には、試合会場である埼玉スタジアムでの練習を無料で公開し、市内のサッカーファンはもとより、国内外から多くのアーセナルサポーターを集め、その数は公開練習では異例ともいえる2,113人となった。
- ・ 開催による効果と期待度としては、今年度の大会開催に伴う推計調査によると、経済波及効果は3億2千711万円となっている。
- ・ 推計にあたり収集したデータによると、来場者は、北は北海道から南は鹿児島まで日本各地から、また、アーセナルの地元イングランドを始め、国外からも多くのサッカーファンが集まっており、改めてヨーロッパサッカーの人気の高さを確認。
- ・ 同時に行った観戦者アンケートの中で、「さいたまシティカップを、毎年開催して欲しいですか」という質問に対して、92.6%が「開催して欲しい」と回答しており、本大会に対するサッカーファンの期待が大変高くなっている。
- ・ 以上、シティカップ開催には「サッカーのまち さいたま」のブランド力の更なる強化、メディア露出によるシティセールスの推進、地域経済の活性化が期待できる。
- ・ 開催方法を見直す理由としては、シティカップを開催する条件として、開催時期が原則としてJリーグが指定するプレシーズンマッチ開催可能期間に限定され、例年6月から7月のJリーグ中断期間とJリーグ開幕前の2月にその開催が認められている。
- ・ このことから、見直す理由の1つ目として時期的な課題がある。
6月から7月については、ワールドカップ開催時期とプレシーズンマッチ開催可能期間が重なってしまうため、シティカップの開催が困難となる。また、2月はヨーロッパ各国サッカーリーグの開催時期と重なるため、海外クラブの招聘が困難となる。これは、ヨーロッパ選手権開催年についても同様。
- ・ 以上のとおり、ワールドカップ及びヨーロッパ選手権が開催される年については、

日程調整が大変困難となることから、毎年安定した大会を実施することが難しい。

- ・ 2つ目の理由としては、財政的な課題がある。開催効果の上がる大会とするためには、出来るだけ人気のある強豪クラブを招聘する必要があるが、そのためには高額な招聘費が必要となり財政負担増が見込まれる。
- ・ また、さいたま市が今後、新たな大型スポーツイベントを実施し、スポーツによって地域経済の活性化を目指して行く中で、それらとの競合が予想され、更なる財政負担が生じる可能性もあることから、開催頻度の見直しを検討したところ。
- ・ 今後の方向性としては、過去の実績、効果、課題等を総合的に勘案し、平成27年度から隔年開催としたいと考えている。
- ・ 理由としては、ワールドカップ及びヨーロッパ選手権の中間年の6月から7月に、ヨーロッパの各クラブは海外ツアーやキャンプを組むことが多く、この時期に人気強豪クラブを招聘し易くなることから、2014ワールドカップ開催の翌年の平成27年度をシティカップの第10回記念大会として開催し、以降はワールドカップ及びヨーロッパ選手権の開催されない年に、開催していきたいと考えている。

< 意見等 >

- ・ Jリーグが2シーズン制になった場合もスケジュールは変更ないのか。
→ 詳細は不明だが、現在のところ変更するという情報は入っていない。
- ・ 中間年に浦和レッズ対大宮アルディージャを開催するという考えはないのか。
→ 浦和レッズ対大宮アルディージャについては、現状でもJリーグで2試合、ナビスコカップで2試合実施されており、これ以上開催するメリットは少ないと考える。
- ・ 隔年開催になることによって、市の財政負担は減少しないのか。
→ スポンサーの状況次第で最終的な市の負担額が決まるため、一概に負担が減るとは言えない。
- ・ 興業的な成功を考えると、埼玉スタジアムでの開催が基本となるようだが、その場合は浦和レッズだけになってしまうのではないか。大宮アルディージャは埼玉スタジアムで試合をすることはできないのか。
→ 大宮アルディージャにもホームスタジアムとしてNACK5スタジアム大宮があるため、埼玉スタジアムで開催することは困難と考える、また、仮にシティカップをNACK5スタジアム大宮で開催した場合、興業的に成功させるためにはチケット価格を1枚あたり数万円に上げざるを得なくなってしまう。
- ・ Jリーグチームと海外クラブとの試合は、他の政令市のスタジアムで開催されているが、他の政令市の財政的支出はどの程度か。
→ 他の政令市において財政的支出を行っているところはなく、シティカップの冠を付して試合を開催しているのは本市独自の取組となっている。
- ・ チケットの販売は市民優先販売などを実施しているのか。
→ 市民優先販売を実施している。
- ・ 浦和レッズと大宮アルディージャの混成チームを編成し、海外クラブと対戦することはできないか。
→ Jリーグの許可が出ない可能性が高いため、困難である。
- ・ シティカップの開催に当たっては、地域活性化等の視点も入れて実施できないか。

→ 今後検討していく。

- ・ 隔年開催であるならば、招聘する海外クラブ側の動向に合わせるだけでなく、観客動員が見込めるクラブを複数ピックアップした上で、積極的に誘致するよう準備を進めるべきではないか。

→ 今後検討していく。

< 結 果 >

- ・ 市民・スポーツ文化局発議の、さいたまシティカップの開催方法の見直しについては、原案のとおり了承する。

< 会 議 資 料 >

(資料1) さいたまシティカップの開催方法の見直しについて